

船客万来！築港(OSAKA CHIKKO)を世界を代表する国際集客観光拠点へ！！～クルーズ客船母港化構想～

開発コンセプト

世界的な創造都市に向けて
グレートリセット

大阪の再生
～都市魅力創造～

『大大阪』にふさわしい
都市魅力創造のシン
ボルプロジェクト

新しい時代の流れ
リ・ジェネレーション

クルーズ市場の成長
～新たな需要の取り込み～

- ・成長著しい観光産業
- ・大阪への寄港ニーズ
- ・大きな経済効果

MISSION

CHANCE

築港の国際的な集客観光拠点化
世界に冠たる築港ブランドの確立をめざす

JOYFULL PORT CHIKKO

集客観光拠点化戦略

戦略1:クルーズ客船母港化構想

経済波及効果が高く、観光都市として世界への発信力の強化にも資するクルーズ客船の母港化(拠点港化)

戦略2:インナーハーバーの再生強化プログラム

- ・民間活力の導入による魅力的な集客観光拠点の創出
- ・天保山ハーバービレッジ
- ・旧サントリーミュージアム(天保山)
- ・中央突堤2号上屋再開発(ピアCプロジェクト)
- ・赤レンガ倉庫

築港エリアマネジメント推進組織(案)

- ・築港の世界へのプロモーション
- ・文化・集客イベントの開催等

コアメンバー

- ・府市観光部局、港湾局
- ・区役所
- ・集客施設事業者(海遊館他)等

- 必要に応じて参加
- ・地元NPO
 - ・地域活動団体他

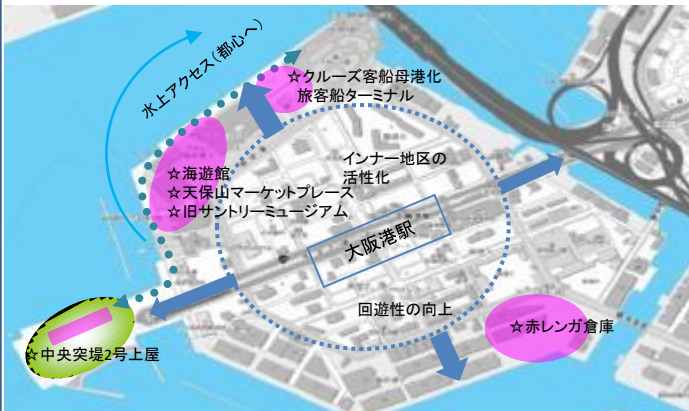
築港の強み

- ・豊富な歴史・文化・景観資源
- ・大規模集客施設を核とした多様な観光資源

- ・関西の海の玄関口
- ・日本随一の客船岸壁
- ・地元のホスピタリティ
- ・都心へ水上アクセス可能

築港の目指す将来像

クルーズ客船の母港化による内外集客力強化に新たなウォーターフロントのまちづくりに挑戦し、世界にアピールできる集客観光拠点をめざす



クルーズ客船母港化構想

クルーズ客船が
定期的に発着

クルーズ・シップ・ターミナル・プロジェクト(天保山)



インナーハーバーの再生強化プログラム

魅力的な拠点施設の創出



具体化方策

CHIKKO 世界へ開かれた大阪・関西の海の玄関口に

クルーズ客船の母港化

- ★スムーズな入出国体制の確立
 - ・スピーディーなバゲージの受渡施設
 - ・迅速な手続きが可能なCIQ施設の設置等
- ★競争力のある港湾施設使用料
- ★外国人観光客がストレスなく行動(移動)できる環境づくり
 - ・観光案内・買物・両替等のインフォメーションの充実
 - ・案内誘導サインのデザイン統一
 - ・多言語表記化

H24年度クルーズ客船母港化研究会(仮称)

- ★既存旅客ターミナルの全面改修又は建て替え
- ★他港より競争力のあるインセンティブの導入(入港料、岸壁使用料の減免等)

H24年度 官民による「大阪港クルーズ客船誘致連絡協議会(仮称)」立ち上げ

- ★アジア域内のクルーズ船社へのトップセールス

CHIKKO 内外の観光客でにぎわう港まちに

天保山ハーバービレッジ帯

- ・イベントの定常化による新たな賑わいの創出
- ・ペロタクシー(自転車タクシー)の運行によるエリア内回遊性の向上等

海遊館への一体貸付

- ・人工地盤等の市所有施設を(株)海遊館に一体貸付し、民間のノウハウを活用したサービス向上

旧サントリーミュージアム

- ・海遊館と集客観光面で相乗効果の期待できる施設利用へ転換

民間活力導入による集客力の強化

- ・民間に全体を長期貸付(公募)
- ・24年度内はツタンカーメン展後暫定活用を公募

中央突堤2号上屋

- ・美しい夕陽を感じるロケーションを活かし、周辺の緑地・岸壁と連携した集客・交流拠点へ転換

民間の企画力を活用した施設へ再生インセンティブを付し事業者を公募(H24年度末物流施設として供用廃止)

CHIKKO 風情感じる港まちに / 楽しさあふれる港まちに

赤レンガ倉庫

- ・歴史ある港風情を活かした集客拠点の創出

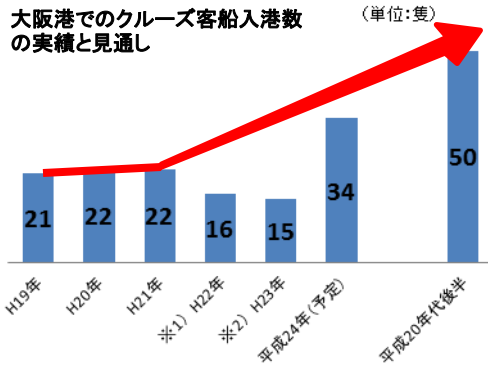
民間への売却・賃貸による再生利用

- ・耐震補強を民間事業者が実施できる売却・賃貸条件を設定し公募
- ・倉庫横広場では文化・交流拠点として「天保山まつり」や「築港キャンダルナイト」等の文化・芸術・集客イベントを支援

クルーズ客船の現状・効果

アジアにおいて成長著しい観光産業

大阪への寄港ニーズの増加



※1) リーマンショックの影響による減少
 ※2) 東日本大震災の影響による減少

欧米の主要クルーズ船社が相次いで東アジアに進出
 日本においても母港(拠点港)化の検討を進めている



クルーズ客船母港化(拠点港)の効果

①経済波及効果

寄港地である場合の約10倍の経済効果
 経済効果:年間約207億円
 税 収:年間約 25億円
 ※大阪港を母港とし乗船客2500人のクルーズ客船が
 1回/週航海したケースを試算

また、母港となると入港回数の増加が見込まれる
 ②観光都市としての世界への発信力の強化
 ・大阪の世界プロモーションの旗印、都市ブランドの向上
 (大阪から世界へクルーズ客船が就航しているという魅力)
 ・シビックプライドの醸成

築港でのクルーズ客船の母港化に向けて、寄港ニ
 ーズの増加と海外船社の母港化検討のタイミングを捉
 えるチャンス

クルーズシッパターミナルプロジェクト
 イメージ(天保山)



ピアCプロジェクトイメージ
 (ウォーターフロントのにぎわい創出)



主要事業スケジュール(案)

	H24年度 (2012)	H25年度 (2013)	H26年度 (2014)	H27年度 (2015)	~H30年代中甸	備考
プロモーション、エリアマネジメント	推進組織の立ち上げ準備	推進組織によるマネジメント				
クルーズ客船の母港化	観光行政連携 H24協議会立ち上げ	大阪港クルーズ客船誘致連絡協議会(仮称)				
	誘致活動	誘致活動				
	施設整備 H24調査により規模等決定	旅客船ターミナル 設計・工事			追加整備	追加整備は需要に 応じ対応
	インセンティブ	必要な手続き(条例、予算等)				
	関係者調整 税関、入国管理、検疫等	関係者調整				
	サイン整備	管理者間での統一~順次整備				
	都心部との水上アクセス	水上アクセスツアーの トライアル	水上アクセスツアーの 商品化			
インナーハーバーの再生	天保山ハーバービレッジ	一体貸付 準備	海遊館による活用			
	旧サントリーミュージアム[天保山]	事業者募集等	民間事業者による活用			
	赤レンガ倉庫	暫定活用	民間事業者による活用			
	中央突堤2号屋	条件検討	民間事業者による活用			
		年度末に物流 施設としての 供用廃止	条件検討	民間事業者による活用		

